

福島県の半導体を国内外にアピール！

グループ名：福島県半導体関連企業グループ

取材先：アルス電子(株) 大内 淳平 取締役他(福島県本宮市)

アルス電子(株)は、半導体パッケージの組立、ウェハーテストやレーザートリミング加工、SMT回路基盤組立などを業とし、本宮市に拠点をおく創業40年を誇る地元企業。



●震災の被害は？

震災では、6工場のうち3工場の天井が崩落し、高額な精密機器の損壊やクリーンルームの機能停止など生産ライン全がストップしてしまっただけでなく、自らの災害対策訓練の成果もあり、人的被害はなかった。社長は、自ら震災翌日から出勤し、業者を待たず自ら撤去作業を行い、その姿を見た社員も誰が言うわけでもなく、自ら工場の復旧作業に取り組んだことで、早いラインは1週間で再開し、暫定的に場所を移すなどし、1ヶ月で全てラインを再開することができた。

●グループ補助金を活用された感想は？

福島県からグループ補助金の話を聞き、県に紹介された関連企業など21社でグループを形成。12月に補助金を申請し、1月に交付決定を受けた。補助金は、工場建屋や設備の復旧に活用している。グループの取りまとめは大変で、当初、面倒な補助金だと思ったが、補助金がなければ、自己資本から捻出しなければならず、切り詰めなければならなかった。補助金の交付を受けることで活動範囲が広がった。資金の補助も大きいですが、それ以外にグループ内の絆が深まり、仕事や情報などの連携が生まれた事が、大変良かった。県や国の方が親切に対応してくれ、とても良かった。かなり大変な時期に、中小企業の事を考えてくれていることを、強く感じた。

●復興への思い

福島県は、半導体関連産業を強化事業と見ている。自分たちの傷の手当てをしっかりとし、何とか福島の半導体を国内外の市場にアピールしたいという、グループ内で共通認識を持っている。今後も本宮市で事業を続け、雇用の維持拡大、地元の復興と経済の活性化に貢献していきたい。



修復が進む工場内(右)
天井が崩落した工場の外観(下)

福島の海の玄関の復興を目指す！

グループ名：小名浜港港湾運送・倉庫グループ

取材先：小名浜海陸運送(株) 鈴木 孝 総務部部長(福島県いわき市)

小名浜海陸運送(株)は、昭和30年、小名浜港の開港とほぼ同時期に、合併・設立し、小名浜港で港湾運送事業、倉庫業、通関業、船舶代理店業務を行う創業約60年を誇る地元企業。

●震災の被害は？

本社は床上浸水、倉庫や作業事務所なども、浸水や地盤沈下、液状化の被害を受けた。社員は、全員マニュアル通り高台の公園に避難し、人的被害は無かった。港湾施設も甚大な被害を受け、大型貨物船が入港できたのは8月からで、その間仕事もなく、社員を自宅待機させ本社の片付け等を行っていた。ようやく岸壁も7~80%復旧したが、大型クレーンの一部が使えず、作業に時間が掛かってしまうこともある。12月に大型クレーンが入るので期待している。

●グループ補助金を活用された感想は？

補助金の話を聞き、県や商工会議所、社会保険労務士の先生にもアドバイスを受け、小名浜港の流通業19社でグループを形成。11月に補助金を申請し、12月に交付決定を受けた。補助金は、倉庫や現場事務所などの復旧、荷役車両の修復及び買換などに活用したいと思っている。23年度決算は数億円の赤字になったが、申請額の4分の3を補助してもらえるのがかなり大きく、ありがたいと思っている。マイナス分を元に戻す手助けになる点が非常に助かる。

●復興への思い

昨年5月に小名浜港が、国際バルク戦略港湾に選定され、外国に比べても遜色のない港を作ろうと震災前から関係者に働きかけてきた。震災でその歩みがストップしてしまっただけでなく、震災前の現状に復旧することが第一と思っている。国や県も頑張ってくれているので、自分たちでできること(例えば、利用者の負担軽減のため、荷役作業を24時間行う)をやり、お客様に戻ってきてもらいたい。元の姿に戻して初めて、歩みが始まるとの思いで頑張っている。



震災と津波の被害が残る倉庫